
平成 29 年度

県政世論調査

香川県

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査項目.....	1
3. 調査設計.....	1
4. 回収状況.....	1
5. サンプル設計.....	1
6. 集計・分析方法.....	3
7. 報告書の見方.....	3
第2章 調査回答者の属性	5
1. 性別.....	5
2. 年齢.....	6
3. 職業.....	7
4. 圏域.....	8
5. 居住年数.....	9
第3章 調査の集計結果	11
1. 交通マナーについて.....	11
2. 少子化対策について.....	32
3. 障害福祉について.....	95
4. 選挙啓発について.....	127
5. 県政の重要度と満足度について.....	148
第4章 数表	209
第5章 調査票	277

<第1章 調査の概要>

第1章 調査の概要

1. 調査目的

県政の諸問題について、県民の意見や要望等を把握し、今後の施策立案に際しての基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査項目

- (1) 交通マナーについて
- (2) 少子化対策について
- (3) 障害福祉について
- (4) 選挙啓発について
- (5) 県政の重要度と満足度について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 香川県全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の県民
- (3) 標本数 3,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査時期 平成29年5月10日～6月1日

4. 回収状況

- (1) 標本数 3,000
- (2) 有効回収数 1,722 (57.4%)

5. サンプル設計

- (1) 母集団 香川県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (2) 標本数 3,000
- (3) 地点数 150地点 (市部：126地点、町部：24地点)
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

【 層 化 】

県内の市町（8市9町）を次のように5圏域に分類した。

圏域名	構成市町
1 高松圏域	高松市・三木町・直島町・綾川町
2 東讃圏域	さぬき市・東かがわ市
3 小豆圏域	土庄町・小豆島町
4 中讃圏域	丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・多度津町・まんのう町
5 西讃圏域	観音寺市・三豊市

さらに、各圏域内を市町の規模によって、

①高松市 ②高松市以外の市 ③町 に分類して、それぞれを層とした。

【 標本数の配分 】

各層における母集団数（平成29年3月2日現在の選挙人名簿登録者数）の大きさにより、3,000の標本数を比例配分した。

【 抽 出 】

- ①第1次抽出単位となる調査地点として、平成29年3月2日現在の投票区を使用した。
- ②調査地点数については、1調査地点あたりの標本数が20前後になるように、各層に割り当てられた標本数から算出して決定した。
- ③調査地点の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における選挙人名簿登録者数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$

を算出し、等間隔抽出法により該当番目が含まれる投票区を抽出した。

- ④抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、総務省設定の市町村コードに従った。
- ⑤調査地点における対象者の抽出は、調査地点（投票区）内から選挙人名簿によって等間隔抽出法で抽出した。
- ⑥以上の結果、圏域別・市町規模別における標本数・調査地点数は次のとおりである。

【 圏域別・市町規模別 標本数および調査地点数 】 上段:母集団数 下段:標本数、()内は調査地点数

圏域 \ 市町別	高松市	高松市以外の市	町	計
1 高松圏域	354,046 1,277 (64)		47,453 171 (9)	401,499 1,448 (73)
2 東讃圏域		71,141 257 (13)		71,141 257 (13)
3 小豆圏域			26,107 94 (4)	26,107 94 (4)
4 中讃圏域		165,842 598 (30)	58,466 210 (11)	224,288 808 (41)
5 西讃圏域		108,986 393 (19)		108,986 393 (19)

6. 集計・分析方法

集計・分析にあたり、回答者の年齢階層の偏りを補正し、年齢別の集計ウェイトを乗じて標本数を規正（ウェイトバック集計）した。ウェイトバック集計した値は、この規正した標本数を基に回答者の割合（百分比%）等を算出している。なお、規正した標本数は、乗算結果の小数点以下第1位を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。

年齢区分	推定母集団		有効回答数		年齢ウェイト A/B
	実数(人)	構成比(%) A	実数(人)	構成比(%) B	
18～19 歳	18,055	2.2	25	1.5	1.530(1.467)
20～29 歳	77,608	9.7	117	6.9	1.405(1.406)
30～39 歳	106,621	13.3	195	11.5	1.159(1.157)
40～49 歳	133,823	16.7	262	15.4	1.082(1.084)
50～59 歳	111,224	13.8	284	16.7	0.830(0.826)
60～69 歳	152,592	19.0	379	22.3	0.853(0.852)
70 歳以上	203,336	25.3	440	25.9	0.979(0.977)
合計	803,259	100.0	1,702	100.0	-

※1) 推定母集団は平成 28 年 10 月時点

※2) 構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

※3) 年齢ウェイトは小数点以下を含んだ各構成比から算出しており、小数点以下第 2 位を四捨五入した各構成比から算出したカッコ内の数値とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、少数第 2 位を四捨五入した。
このために、百分比の合計が 100.0%にならないことがある。
- (2) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢の有効回答数に対し、それぞれの割合を示している。
このために、その比率の合計が 100.0%を超える場合がある。
- (3) 図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。また、設問で回答がなかった選択肢について、図中の比率表記（0.0%）を省略している。
- (4) 本文、図表、集計表に用いた符号等の意味は次のとおりである。
N：質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数

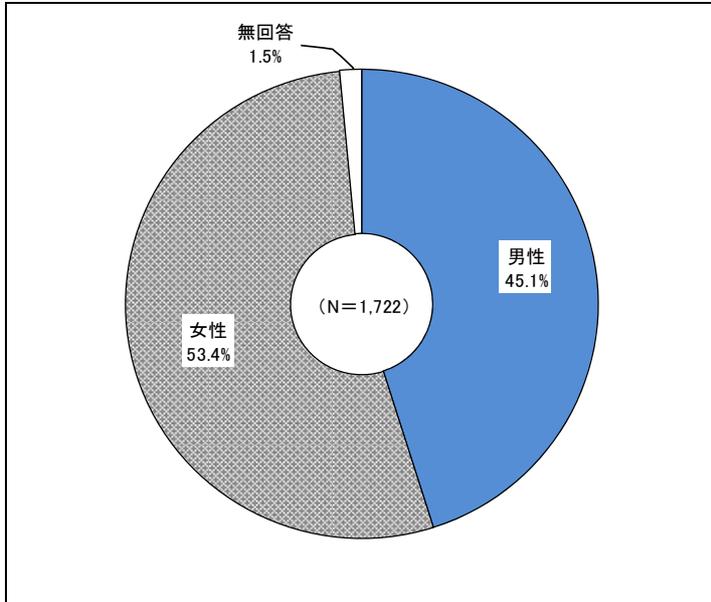
<第2章 調査回答者の属性>

第2章 調査回答者の属性

1. 性別

性別について、「男性」(45.1%)、「女性」(53.4%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「男性」(45.3%)、「女性」(53.2%)となっている。



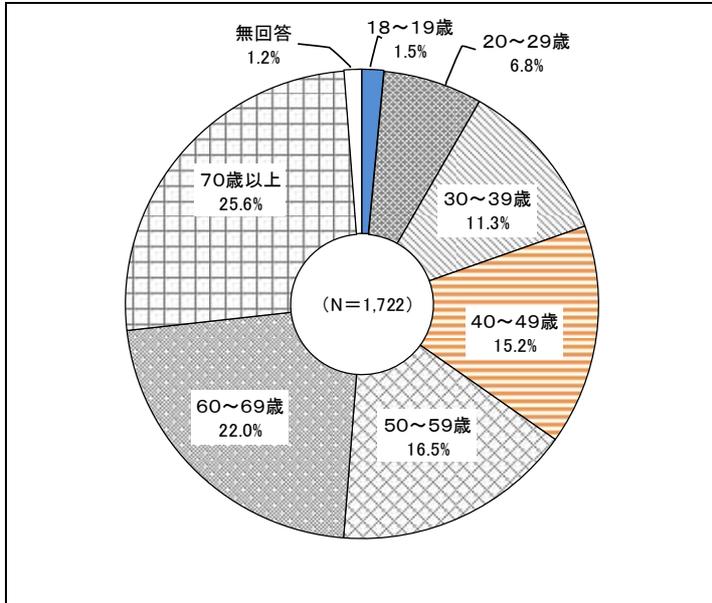
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
男性	777 (779)	45.1 (45.3)
女性	919 (916)	53.4 (53.2)
(無回答)	26 (26)	1.5 (1.5)
計	1,722	100.0

※ () 内の数字はウェイトバックした値

2. 年齢

年齢について、「70歳以上」(25.6%)が最も高く、次いで「60～69歳」(22.0%)、「50～59歳」(16.5%)、「40～49歳」(15.2%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「70歳以上」(25.0%)が最も高く、次いで「60～69歳」(18.8%)、「40～49歳」(16.5%)、「50～59歳」(13.7%)などとなっている。



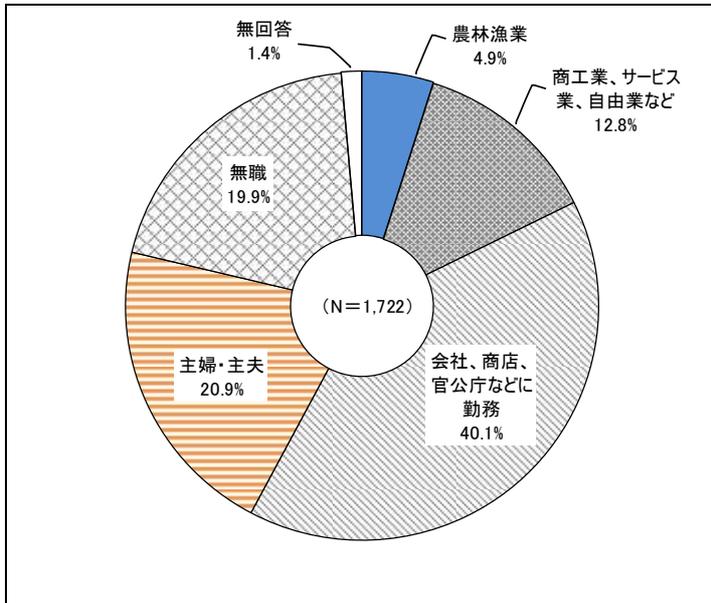
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
18～19歳	25 (38)	1.5 (2.2)
20～29歳	117 (164)	6.8 (9.5)
30～39歳	195 (226)	11.3 (13.1)
40～49歳	262 (284)	15.2 (16.5)
50～59歳	284 (236)	16.5 (13.7)
60～69歳	379 (323)	22.0 (18.8)
70歳以上	440 (431)	25.6 (25.0)
(無回答)	20 (20)	1.2 (1.2)
計	1,722	100.0

※ () 内の数字はウェイトバックした値

3. 職業

職業について、「会社、商店、官公庁などに勤めている」(40.1%)が最も高く、次いで「主婦・主夫」(20.9%)、「無職」(19.9%)、「商工業、サービス業、自由業などを営んでいる」(12.8%)、「農林漁業」(4.9%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「会社、商店、官公庁などに勤めている」(41.0%)が最も高く、次いで「無職」(20.0%)、「主婦・主夫」(19.9%)、「商工業、サービス業、自由業などを営んでいる」(13.0%)、「農林漁業」(4.6%)となっている。



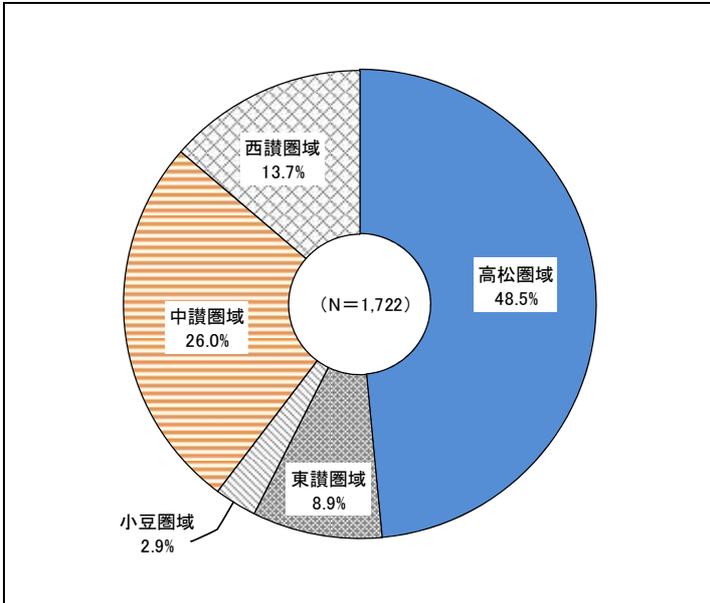
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
農林漁業	85 (80)	4.9 (4.6)
商工業、サービス業、自由業など	221 (225)	12.8 (13.0)
会社、商店、官公庁などに勤務	690 (706)	40.1 (41.0)
主婦・主夫	360 (343)	20.9 (19.9)
無職	342 (344)	19.9 (20.0)
(無回答)	24 (24)	1.4 (1.4)
計	1,722	100.0

※ () 内の数字はウェイトバックした値

4. 圏域

圏域について、「高松圏域」(48.5%)が最も高く、次いで「中讃圏域」(26.0%)、「西讃圏域」(13.7%)、「東讃圏域」(8.9%)、「小豆圏域」(2.9%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「高松圏域」(48.9%)が最も高く、次いで「中讃圏域」(26.2%)、「西讃圏域」(13.5%)、「東讃圏域」(8.6%)、「小豆圏域」(2.7%)となっている。



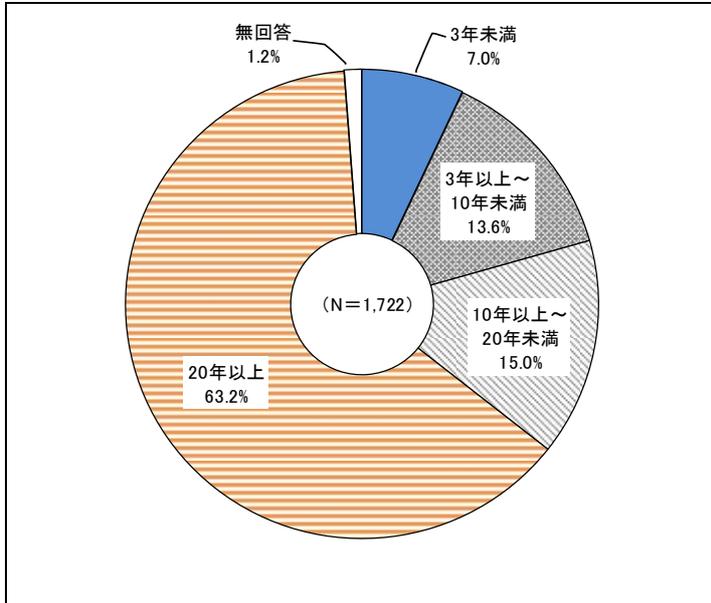
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
高松圏域	835 (842)	48.5 (48.9)
東讃圏域	153 (149)	8.9 (8.6)
小豆圏域	50 (47)	2.9 (2.7)
中讃圏域	448 (452)	26.0 (26.2)
西讃圏域	236 (233)	13.7 (13.5)
(無回答)	0 (0)	0.0 (0.0)
計	1,722	100.0

※ () 内の数字はウェイトバックした値

5. 居住年数

居住年数について、「20年以上」(63.2%)が最も高く、次いで「10年以上～20年未満」(15.0%)、「3年以上～10年未満」(13.6%)、「3年未満」(7.0%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「20年以上」(60.3%)が最も高く、次いで「10年以上～20年未満」(15.7%)、「3年以上～10年未満」(14.7%)、「3年未満」(8.1%)となっている。



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
3年未満	121 (139)	7.0 (8.1)
3年以上～10年未満	234 (253)	13.6 (14.7)
10年以上～20年未満	258 (271)	15.0 (15.7)
20年以上	1,088 (1,038)	63.2 (60.3)
(無回答)	21 (21)	1.2 (1.2)
計	1,722	100.0

※ () 内の数字はウェイトバックした値

